

「訳者まえがき」より(抜粋)

著者ジャン=クロード・ベルフィオールは、1955年にフランス西部の商工業都市ナントで生まれている。地元の国立高等学校を卒業後、ナント大学、続いてオート=ブルターニュ大学で学業を修めた。またナント大学文学部やイタリアのバリ大学でも教鞭を執ったことがある。

主要な著書は、本事典や、『古代信仰・シンボル事典』(ラルース、2010年)、『ハンニバル 信じられない運命』(2011年)といった古代の神話、シンボル、歴史関連の著作を多数出版しているが、1984年には最初の推理小説『盛りの過ぎた女』を発表、その後6冊の小説も世に出している。

ベルフィオール『ギリシア・ローマ神話大事典』の特徴は、項目が多く、内容が多岐にわたっているところだろう。項目数は2,500を超える。本書の項目は、従来の神話事典のような神名、英雄、怪物などに限定されているわけではない。「デルポイ」、「エレウシス」、「クレタ」、「ラティウム」などギリシア・ローマ神話に関連した地名、さらに『イリアス』、『オデュッセイア』、『アエネイス』といった文芸作品まで加えられ、広範囲に及んでいる。それだけでなく、古代の社会制度に関わる「女」、「奴隷」、「祝祭と競技会」などが大項目として取り上げられ、歴史的・神話的に詳述されている。

著者自身が序文で言及しているように、文芸作品や歴史書から抜粋された引用文は260編以上にのぼる。これは、従来の事典にない新しい試みといつてよかろう。これによって神々や英雄の最も興味をそそる場面や出来事が、ソポクレスやセネカのような悲劇作家、プルタルコスやティトゥス・リウィウスのような歴史家たちの文や証言を通してクローズアップされ、読者に伝わるようになった。

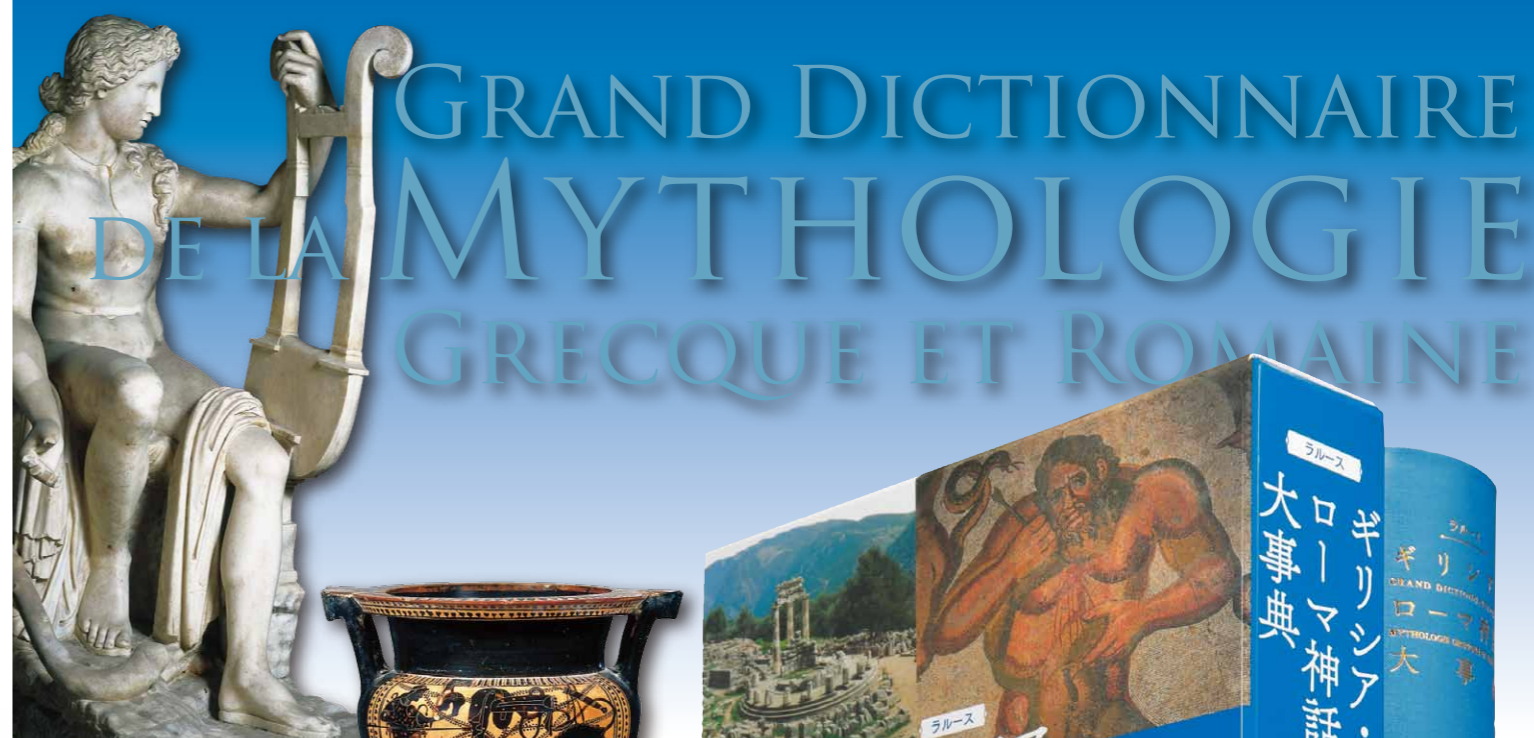
引用文に限らず、各項目の本文でも、記述の仕方は、原著者のベルフィオールが主体的に語るというより、文献目録にある古代の著述家の著書から該当する箇所を厳選し、彼らの言葉を忠実、かつ実証的に採用する方法を採っている。

[金光仁三郎]

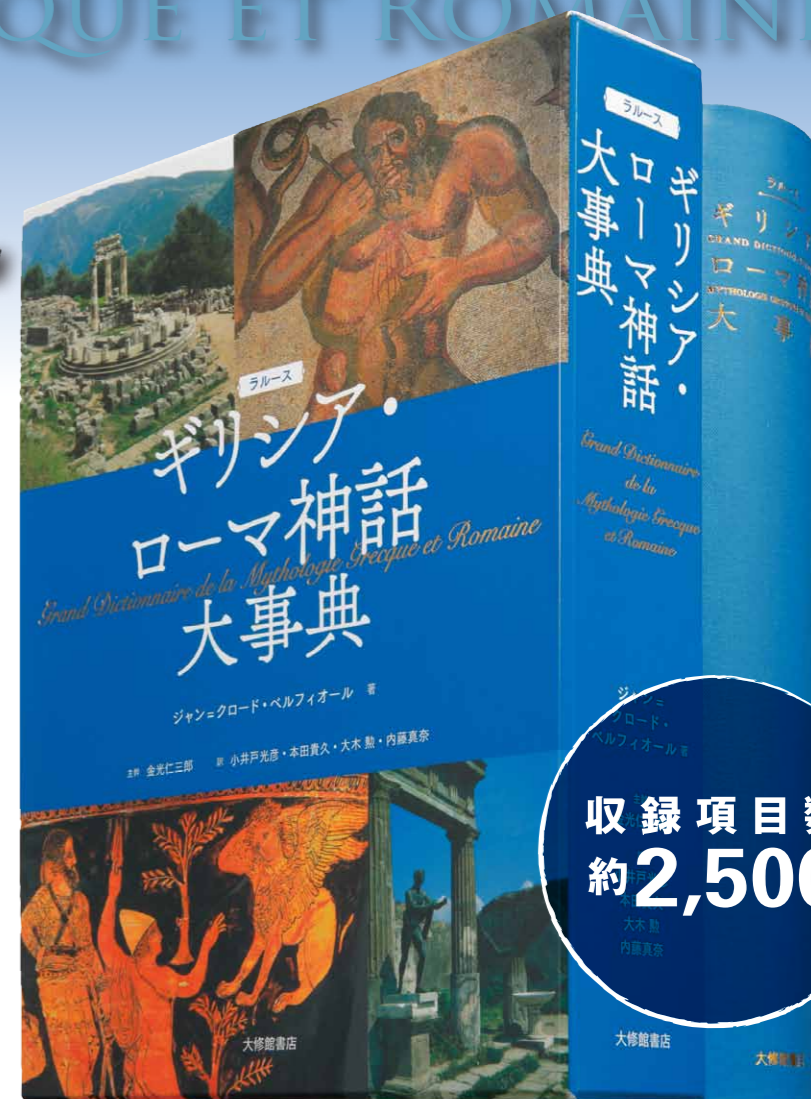
■著者 **ジャン=クロード・ベルフィオール**
(Jean-Claude Belfiore)

■主幹 **金光仁三郎** (中央大学名誉教授)

■訳者 **小井戸光彦** (茨城大学名誉教授)
本田貴久 (中央大学准教授)
大木勲 (水産大学校助教)
内藤真奈 (国際基督教大学特任講師)
※所属は2020年4月現在



さまざまに
活写される
神々や英雄
たちの世界



収録項目数
約**2,500**

ラルース

ギリシア・ローマ 神話大事典

ジャン=クロード・ベルフィオール [著]

金光仁三郎 [主幹] 小井戸光彦・本田貴久・大木勲・内藤真奈 [訳]

◎B5判・上製・函入・1,082頁
定価=本体**22,000円**+税
978-4-469-01289-7

ギリシア神話・ローマ神話の全貌を網羅した
最新・最大の事典。文芸作品からの引用や豊富な図版などで、
神々や英雄たちの世界を生き生きと蘇らせる。



大修館書店

大修館書店 〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 TEL: 03-3868-2651 FAX: 03-3868-2640 <https://www.taishukan.co.jp>

書名	定価	ご注文数	番線印
ラルース ギリシア・ローマ神話大事典 978-4-469-01289-7	本体 22,000円 +税	冊	
注文書 お名前	ご記入日	年 月 日	
ご注文所 〒	電話番号 ()		

*お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。

図版多数!

資料も充実!

「宗教」「祝祭と競技会」「女性」などの重要なテーマについては、特設ページで重点的に解説

女の置かれた環境

女の置かれた環境

ギリシア人であれローマ人であれ、古代の女性は家父長制社会における厳格な父権に服従する。しかしながらその環境は時代とともに変化し、また場所によっても異なり、社会における女性の地位が変化するのに応じて改められていくことが確認される。



ギリシアの女 若者を迎え入れる新郎の母 (壺絵より)

ペロポネソス戦争中に生じたペストの蔓延や社会規範を忘れ去らせる... (前9-8世紀)の時代から... 都市活動に関して、... 分野に秀で、その名や作...

の不在時にこのような歌を聴いて心を引き裂かれたペネロペイアは、ほかの歌で聴衆を楽しませるようベリオスに懇願する。すると息子テレマコスはこのように応じた。「部屋へ戻り、機織りや糸巻きなど、女としての仕事に専心し、侍女がその任を果たすよう命じなさい。言葉は男の領分、とりわけこの家の主たる私の領分なのだから。」一方でこのような発言内容が、母と子を結ぶ情愛の絆と相反するものではないこともまた明らかである。

女と法

離婚をした女性については、直近の親族が権限を持つ。ただし女性は執政官の介添えなくしては離婚を行うことができず、そればかりか、離婚の手続きを女性主導で行う状況は考えられない。しかしながら、虐待を受けたような場合には、妻の言い分が認められることもある。夫は妻に対し、離婚する自由を有し、例えば妻がなんらかの罪を犯したような場合、あるいは不貞行為を働いた場合には命を奪うことさえできる。なお、不妊もまた離婚の理由となる。そればかりか、不妊の場合に妻を離婚することは男側の義務とされ、したがわなければアティミア、すなわち市民権の喪失にいたる罰を受ける。両者の同意に基づく離婚の場合、子は父親とともに暮らし、持参金(花嫁が婚姻時に用意した財産)は贈与者たる妻の父親に返される。寡婦となった母親は、子の後見人を務めることができる。

若い娘と(若い)男を結婚させる際は、証人の立ち会いのもとに宣誓された両者(父と夫)による正式な合意を経て決定がなされる。万一の場合には、この証人が合意のあったことを裏付ける。「パティコス: 嫡出子をこの世に生み出すため、この...

261

ポリュクセノス

Polyxenos Polyxenus Polyxénos ■トロイアと戦ったギリシア人の長の1人。アガステノスの息子、アウゲイアスの孫であるポリュクセノスは、おそらくヘレネの求婚者として、40艘の船団とともにトロイア戦争に参戦した。彼はエリス人を指揮した。戦争から無事に帰還すると、クテアトスの息子でありイリオンで倒れたアムピマコスに対する友情から、息子をアムピマコスと呼んだ。 1. HYGIN, FABLES (LXXXI, XCVII, 11); APOLLODORE (III, 10, 8). 2. HOMÈRE, ILLADE (II, 624); APOLLODORE (II, 4, 6). 3. PAUSANIAS (V, 3, 4).

巻末には索引完備 (日本語、英語、仏語、図版)

ルールス

ギリシア・ローマ 神話大事典

おもな特色

神や英雄の生きた姿を伝える 文芸作品からの引用も随所に収録

ポリュクリテ

ポリュクセネのいけにえ

ある者はポリュクセネの魅力を、ある者はその若さを、ある者は人間が被る苦難を考へてしんみりとしておりました。しかしながら彼女をより驚かせたのは、いけにえを成し遂げるのにピュロスが時間をかけたことでした。剣がいけにえの胸に根元まで突き刺さるやいなや、死をもたらす深い傷から血があふれ出したのです。この瞬間にさえ、ポリュクセネは毅然とした態度を崩すことはありませんでした。彼女は倒れましたが、アキレウスの息子の父の墓の上のほると、この勇敢な生娘は1歩も後には引かず、ピュロスのほうを振りむくと、切られることとなっている首を差し出した

セネカ



ポリュクセネのいけにえ (1702年の彫刻より)

本文には300点余の 図版を収録

ポリュクソ

Polyxo Polyxo Polyxo ■1. トレポレモスの妻。ヘレネの殺害者。ポリュクソはトロイアを前に倒れた夫の死の責任がヘレネにあるとして、ヘレネを責めた。復讐するため、ポリュクソは入浴するヘレネのもとにエリュニスたちに似た侍女を送りこんだ。彼女たちは若き娘をさらうと、木に吊した。ロドス人たちはヘレネ・デンドリテイス(樹木ゆかりのヘレネ)を祀る神殿を建てた。 2. HYGIN, FABLES (LXXXI, XCVII, 11); APOLLODORE (III, 10, 8). 2. HOMÈRE, ILLADE (II, 624); APOLLODORE (II, 4, 6). 3. PAUSANIAS (V, 3, 4).

ら、アプロディテが望んだ婚めを船員たちが彼女たちに受けさせた後、仲間にも殺すよう仕掛けたのも、ポリュクソである。→ヒュピシユレ ■3. テバイ王ニユクテウスの花嫁。アンティオベの母。→アンティオベ ■4. ナイアス。ダナオスの妻。ポリュクソとダナオスの12人の娘は、アイギプトスとニフのリアドネの12人の息子と結婚した。 1. PAUSANIAS (III, 19, 10); THÉOCRITÈ, ÉPIGRAMME D'HELÈNE (XVIII, 44-48). 2. POLYEN (I, 13). 3. APOLLONIOS DE RHODES (I, 668-697); HYGIN, FABLES (XV, 2); STACE, THÉBAÏDE (V, 85-103). 4. APOLLODORE (III, 10, 1). 5. APOLLODORE (II, 1, 5).

ポリュクリテ

Polykritè Polykritè Polykritè ■ナクソスの女傑。

文献によって解釈が異なる異同 (ヴァリエント) も網羅した詳しい解説

765

本文組見本 (80%縮小)

ロー (1826-1898) アオック美術部 L. Winthrop Bequest, Harvard University/T

ユニコーン (一角獣) 「神々の愛」 アンバーレ・カルラッチ (1560-1609) ローマ、カラッチが描いた神話画 (1595-1604) Ph. © Dagli-Orti